

早稲田大学審査学位論文  
博士（人間科学）  
概要書

セルフ・ハンディキャッピングが  
オンライン大学で学ぶ社会人学生の  
学習継続に与える影響

Effect of Self-handicapping on  
Continuation of Learning for Adult Students  
of Online University

2021 年 1 月

早稲田大学大学院人間科学研究科  
中村 康則  
NAKAMURA, Yasunori

研究指導担当教員：向後 千春 教授

## 論文概要

本論文は、オンライン大学で学ぶ社会人学生の学習継続に資するため、社会人学生の学び直しの阻害要因としての「セルフ・ハンディキャッピング（以下、SHC）」に着目し、その SHC を緩和する手立てについて検討したものである。

第 2 章（研究 1）では、社会人学生の学習継続に影響する阻害要因を検討するために、社会人学生を対象とした文献から阻害要因を抽出した上で、それらと SHC との関連性について検討した。その結果、阻害要因として、7 種のカテゴリー（状況、制度、情報、個人差、非柔軟性、固定観念、忌避感情）と、16 種のサブカテゴリーが抽出された。抽出された阻害要因と SHC との関連性を検討したところ、すべての阻害要因が SHC と関連し得ることが示された。まず、状況、制度、情報、個人差の阻害要因は主張的 SHC となり得る。主張的 SHC は教員や他学生からの好意や援助行動を低下させるため、これらはさらなる忌避感情の阻害要因へとつながる。また、この忌避感情を避けるため、たとえば「困難な目標の選択」「仕事や家事への専念」などの獲得的 SHC の採用に至れば、今度は学習の遂行パフォーマンスを低下させてしまう。さらに、非柔軟性と固定観念は公的自意識、テスト不安、ステレオタイプ脅威と関連すると考えられるため、SHC を促進する要因にもなり得る。

第 3 章（研究 2・研究 3）では、社会人学生が実際に陳述した SHC をもとに、社会人学生の実態に即した SHC 尺度（SHS-ASCC）を開発した上で、SHC の統制可能性について検討した。さらに、開発した尺度を用いて、SHC が社会人学生の学習継続に悪影響を及ぼすか否かを検討した。研究 2 における探索的因子分析の結果、4 因子 14 項目からなる SHS-ASCC が開発された。SHS-ASCC の下位尺度は「時間不足」「老化」「能力不足」「体調不良」であった。また、因子構造の適合性を検討するため、確証的因子分析を実施したところ、SHS-ASCC は一定の適合性を有していると判断された。SHS-ASCC の統制可能性の検討では、社会人学生は「時間不足」「老化」「能力不足」「体調不良」の各 SHC を統制不能と捉えていることが示された。統制不能な SHC は、短期的には自尊感情を防衛できるものの、不適切な遂行が将来も引き続き起こってしまう可能性を排除することができ

ないため、これらの SHC は社会人学生の学習継続に悪影響を及ぼすことが予想された。

そこで研究3では、SHS-ASCC と、SHC を緩和する可能性のあるハーディネスの尺度とを用いて、社会人学生を類型化し、成績・学習時間との関係を検討した。クラスター分析によって分類した結果、学生は「高 SHC 型」「時間不足 SHC 型」「低 SHC 型」の3タイプに類型化された。これらの3タイプにおける成績・学習時間の差を検討したところ、「高 SHC 型」の成績は、他に比べ有意に低いことが示された。また、「低 SHC 型」は、学習時間が他に比べ有意に長く、成績は「高 SHC 型」よりも有意に高いことが示された。すなわち、SHC は社会人学生の学習継続に悪影響を及ぼすことが明らかとなった。

第4章（研究4）では、自己内省とハーディネスの特性を踏まえ、自己内省がハーディネスの特性を強め、それが SHC の特性を緩和するという SHC 緩和モデルを検討することにした。構造方程式モデリング（SEM）を用いて SHC 緩和モデルを検討したところ、自己内省の「否定性の直視」「内省の頻度」がハーディネスの「コミットメント」の特性を強め、それが「時間不足」「体調不良」の SHC の特性を弱める SHC 緩和モデルが示された。くわえて、自己内省の「内省の頻度」がハーディネスの「チャレンジ」の特性を強め、それが「時間不足」「体調不良」「老化」の SHC の特性を弱めることも示された。そのため、自己内省がハーディネスを強め、それが SHC を緩和するといった仮説は、概ね支持される結果となった。

以上の検討により、1) 社会人学生の学習継続上の阻害要因は SHC と関連し得ること、2) 社会人学生の実態に即した SHC 尺度を開発し、それを用いて SHC と成績・学習時間との関係を検討したところ、社会人学生の SHC は学習を継続する上で悪影響を及ぼすことが明らかとなった。また、SHC の傾向により、成績や学習時間を予測できる可能性も示された。その上で、3) 社会人学生の SHC を緩和する手立てについて検討したところ、自己内省がハーディネスの特性を強め、それが SHC の特性の緩和につながることを示された。すなわち、オンライン大学で学ぶ社会人学生の学習継続に資するためには、社会人学生の自己内省の特性を強める指導方略の検討が有益であるとの示唆を得た。